



2007年4月より、バーナム医学研究所(福田 穰研究室)に勤務しています。当初は英語に戸惑い、緊張の連続だった生活も、自身のペースで暮らせるようになってきました。毎日の実験はトライアンドエラーの連続ですが、福田教授のご指導のもと、同僚や所内の多くの仲間らに助けられ仕事を進めつつ、研究に専念できる環境に感謝しています。当地での生活と研究についてご紹介致します。

[地理と地域性]

研究所のあるラホヤ市は、カリフォルニアで屈指の景観を誇る観光都市として有名です。隣のサンディエゴ市は、人口130万(全米7位)で西海岸の最南端に位置します。これらの市を含む広義の地名としてのサンディエゴは、基地の町(米軍の施設が多い、映画トップガンの舞台)、国境の町(メキシコとの国境まで25 km)、ハイテクの町(私達の研究所の周囲にもUCSD, スクリプス研究所, ソーク研究所等の教育・研究機関や、バイオ・IT関連企業が多い)とも称されています。気候は、夏でもジメジメとした湿気を感じることもなく、冬は冷え込まず降雪もなく、とても快適で過ごしやすいです。西海岸特有の気候を反映して、大都市の割には素朴な土地柄と親切な人柄が印象的で、所内は勿論のこと、アパートや外出先で困った時には周囲の人々に助けをもらい、今に至っています。

[研究所と研究室]

バーナム医学研究所は1976年に創立された非営利研究機関であり、730名の研究者を含む全職員数は約930名です。現在のキャンパスは、ラホヤ, サンタバーバラ(カリフォルニア州), オーランド(フロリダ州)

の3カ所で、From Research, the power to cureのスローガンのもと、多岐に渡る研究が進められています。当研究室では、糖鎖(殊にO-結合型糖鎖)の発生、炎症、疾患における役割を明らかにしてきました。近年、ピロリ菌感染と炎症に関わる糖鎖についても注目し、ピロリ菌感染におけるL-セレクトリンリガンドと炎症との相関、ヘリコバクター属に特異的な糖転移酵素(CHL α GcT)のクローニングを報告してきました。私の研究テーマは、博士課程での研究を発展させたもので、ピロリ菌感染・炎症におけるCHL α GcTの機能解析、ならびに糖鎖ライブラリーやファージディスプレイ法を用いたCHL α GcTの阻害剤のスクリーニングです。日本の臨床分離株より単離したゲノムDNAの解析よりCHL α GcTに見られるアミノ酸変異が、免疫応答にどのように関与するのか、基礎的データを提供すると同時に、同酵素を阻害することによるピロリ菌治療への可能性を探ってゆきたいと考えています。

[生活と自然]

日々の暮らしでは、サンディエゴは全米4番目に安全な都市と言われる通り、治安が良いことも特長です。州の消費税率は8.75%ですが、生鮮食料品には課税されないのが助かります。地元のスーパーの他に、日系・アジア系スーパーもあり、日本の食材も容易に手に入れることができます。ラホヤの海岸には車でたった10分、いつでも美しい海岸線を眺めることができます。さらに、その南北にも幾つも海岸があり、それぞれ違った雰囲気を楽しめます。研究所の近くには、海風を臨むトリーパインズゴルフコースがあり、逆に、乾燥した気候の内陸地に車を進めると、砂漠の州立公園や砂丘地帯が広がります。市街地の近くには、美術館や博物館が点在するバルボア公園、パンダブースが依然と人気のサンディエゴ動物園、多くのショーが楽しめるシーワールド等、見所も豊かです。サンディエゴのダイナミックな自然に囲まれた生活は、心と体に潤いと活力を与えてくれます。

渡航を支えて下さった多くの方々、福田教授はじめバーナム医学研究所のメンバー、現在も共同研究でお世話になっている中山 淳教授はじめ信州大学医学部病理組織学講座の皆様にご感謝致します。

(2009年6月)

(2007年信州大学大学院医学研究科病理組織学講座修了)